

<b>No.11</b>	<b>高度化</b>		
<b>氏名</b>	<b>深田 紘希</b>	<b>情報理工学部</b>	<b>2回生</b>
<b>1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。</b>			
<p>複数の要求に対して効率の良い学食の食べ合わせを提案してくれるアプリケーションの作成を行います。BKCの学食は、健康に気を使った最適な食べ合わせなどの提案ができていないと感じました。健康だけではなく、私のようにBKCジムに通っている人はタンパク質量に目を向けるだろうし、肌荒れが気になる人はビタミンなどの必須アミノ酸の量に気を付けるでしょう。あるひとは400円、500円、700円分のミールカードをより効率よく消費したいはずです。このような異なるすべての目的に対して生協が直接対応するのは難しいですが、アプリケーションで複数の要求に対応することは可能です。多様な目的に対して効率的に学食を活用できるアプリケーションが今求められています。</p>			
<b>2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。</b>			
<p>開発手法はプロトタイプ型で行います。プロトタイプ型とは開発段階で製作予定のシステムの簡易版を設計・開発・テストすることを繰り返し、そのフィードバックを元に最終的なプロダクトの完成を目指す開発手法のことです。まず実現のための技術選定を行います。アプリケーションは公共性の観点からWebアプリケーションで行うことが望ましいと考え、フロントエンドにJavaScript、バックエンドにPythonを使うことを決定しました。Webアプリでの作成は今まで経験が少ないため、言語に合わせた基礎学習を進め、最終的にはNode.jsで作成したコードををHerokuにアップしたりして制作の流れを学びます。次にフロントエンドの具体的な設計と実装を行います。最低限の機能で、プロトタイプが動くことを目指します。次にバックエンドの具体的な設計と実装を行います。次にこれを評価して改善したものを作成します。以上の行動を繰り返します。</p>			
<b>5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。</b>			
<p>技術の長短をより一層考えて技術を選定したうえで、同様の目的をもったアプリケーション制作を行っていきたいと考えています。今年度得た知識は継続しているためより政策ができるものと考えております。多様な目的に対して効率的に学食を活用できるアプリケーションは、学食を利用する学生・教職員その他利用者の健康増進に寄与するため非常に価値あるものです。完成するまで取り組むつもりですので、以上をもって活動展開とします。</p>			
<b>6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。</b>			
<p>今年度学習したのとしてJava,Python,JavaScript,Kotlin(Android)が挙げられます。正課活動で用いているプログラミング言語のほとんどを、この活動を行うことで網羅できたものと思われます。今後の学びを他の学生に対して大きくリードすることができ、また進路に関してもシステムエンジニアとしてのキャリアを進めるうえで有利になる取り組みが行えたと考えています。</p>			
<b>7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。</b>			
<p>このアプリケーションは社会への貢献度が高いと考えています。よって完成することによって社会や周囲への貢献ができるものですが、作成している現在では社会への還元や貢献はできていないとらえています。私はこのアプリケーションの制作を今年度で終了することはありませんので、今年度の活動が無駄にならないようにこれからも一生懸命制作に取り組んでいこうと思います。</p>			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
<p>成長したポイントとしては3つ存在すると感じています。1つ目は採用直後に技術選定のために、様々なプログラミング言語や技術に関して学習を進めたことです。2つ目は中間報告会で他の受給者の活動を間近で見ることによって同世代で努力している人からモチベーションを得られたことです。3つ目は秋学期が始まって数か月たったときに技術選定に疑問を感じて、WebからAndroidへの移行を進めたことです。採用直後に学習を進めて知見を深めていたことや、正課活動からの影響によって技術選定に疑問を感じることができ、いわゆるちゃぶ台返しのようなことが起こり、大きな成長機会を得ることができました。</p>	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
<p>技術選定に関してAndroidアプリでの開発が最も適切だと正課の活動で気づくことができました。また、もともとWebアプリケーションでの開発を行う方針でありましたが、情報とWebは切り離すことができない密接な関わりがあり、今後の正課の活動に必須である知識を得ることができました。さらに最初のプロトタイプにはJavaを用いており、全体として様々な言語に触れることができたことも知識を深めることに寄与しました。</p>	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	2
＜理由＞ プロトタイプを様々な方面から作成し、当初目的としていた技術の勉強を進めることができました。あとはその技術を反映する場面ではありますが、まだ十分には反映できていません。実用性に関してまだ難のある製品となっております。目標を十分に達成したとはいえないものとなりました。	
② 計画の達成度	3
＜理由＞ 当初の計画はまず技術的な面での学習を行い、実際のプロトタイプを制作して改善することを繰り返すことです。技術面での学習は、春学期時点である程度計画通りの進行が行っていたものと思います。プロトタイプの作成ですが、行っていたがゆえに根幹部分の疑問が生じて修正に秋学期を費やすこととなったため、当初のプロトタイプ型の開発手法を行うということは一部達成していたと考えています。しかし、製品を完成させるという部分では最終目標には届いていないとらえています。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
＜理由＞ 春学期で応用性の高い技術を座学で勉強することができたため、自己成長はあったと感じています。後期はそれぞれの技術の長所と短所を改めて考える機会となり代替の利かない成長機会を得ることができました。あとはアウトプットをより多く身につけることが必要に感じています。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	技術的知識が深まりました。それにより技術の長短を比較することができ、正しい技術選定をする力が以前よりも身につきました。
② ①で記述した力について具体的に説明してください	今年度学習したのとしてJava,Python,JavaScript,Kotlin(Android)が挙げられます。どれも汎用性の高い言語であり、技術的知識が深まりました。それによって長短を比較して適切なものを選択するという能力も以前よりも身についたと思われます。
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	技術書の寿命は、技術の内容にもよりますがそこまで長くありません。もって数年というところ。最新の書籍は本大学の図書館にも存在しないことが多いため自主購入するための資金が奨学金により捻出できたことは大きかったです。さらにバイト分の時間を奨学金により捻出できたことも大きいです。